

「桜の樹」^{さくら} ニュースレター^き vol.53 2026.1

岡倉天心記念
がん哲学外来
巣鴨カフェ「桜」

今年もよろしくお祈りします ニャンコ先生

先日、「がん哲学外来メディカルカフェのビジョンと夢を語りあう」学びの会に参加してきました、主催は勝海舟記念下町(浅草)がん哲学外来(主宰 宮原富士子)、共催 特定非営利活動法人浅草かんわネットワーク研究会、後援 一般社団法人がん哲学外来です、講演の1番目は福井県から一般社団法人がん哲学外来理事長の宗本義則さんより「全国で拡がるがん哲学外来カフェ将来に向けてそれぞれの人の人生・仕事・生きがいに寄りそって～福井県済生会病院の実践からの提案～」、2番目は虎の門病院 認定がん相談員の森岡江美さんより「入退院・外来への費用の相談も病院の相談窓口の活用で、メディアで日々語られる”高額療養費制度”自分ごととして」、3番目は大分県から医療法人メディケアアライアンスあおぞら病院 薬剤師の阿部純子さんより「バーンアウトしない生き方 言葉を大切にしたい生き方」、4番目は静岡県から浅草かんわネットワーク研究会顧問 さくら醫院医師の安達昌子さんより「お医者さんとの出会い、つきあい、上手にできていますか」講演のタイトルだけを書きましたが、どれも一日では足りないような内容を20分にまとめた講演でした。社団のホームページより内容は確認できると思います、参加して感じたことは、我々「がん哲学外来カフェ」の後ろには医療従事者を始めたくさんの方に支えられていること、解決するために相談できる場所がたくさんあるということです、2026年も巣鴨がん哲学外来「桜」に参加される方の問題解決の少しでもお役に立てばと思いましたが、もちろん本来の目的、井戸端会議のただの雑談をお待ちしています。

私個人の正月の心境は一休禅師の狂歌、
「正月は冥土の旅の一里塚 めでたくもあり、めでたくもなし」



感謝を伝える 岡ちゃん

プレゼントといえば、友人や家族から頂いたプレゼントの嬉しくて楽しい思い出もありますが、心から喜んでもらえたと感じた、父へのプレゼントの話をしたと思います。私がお勤めを始めてまもない頃だったと思います。これまでの感謝をこめて、父と母にプレゼントをしました。母には洋服を、父にはコーデロイの座布団をプレゼントしました。

その頃、父は口癖のように「お尻が寒いよな～」と言っていました。話を聞いてみると、車の運転中、お尻がスースーするとのこと。私はしばらくの間、いつもの独り言と流していましたが、プレゼントを考えた時、そのことが頭に浮かびました。「座布団をあげよう」車の座席なら、あまり高さのない、薄手の暖かいものがありました。早速買い物に出かけるとまもなく、目に飛び込んできたのは、コーデロイの座布団でした。希望のものが見つけられた嬉しさとドキドキで、胸が暖かくなるのを感じました。家に帰り父の反応が気になりつつプレゼントを渡すと、嬉しそうに「これは丁度いいなあ」と言って、恥ずかしそうな笑顔を見せたのです。

父と母の事を考えて選んだプレゼントを渡したことで、2人の心に何かを感じてもらえたとすることができました。冷えきった身体で湯船に浸かる時の、じんわりと温まっていく感覚のような喜びを感じました。

気持ちの伝え方はそれぞれですが、その時々自分の感情を受け止めて感謝を伝え続けたいと思っています。

相手の事を考えて伝える感謝は、どんな形でも伝わるのだと思います。これからも、自分ができる感謝の形を見つけていきたいと思いました。



岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」

sugamocafe.sakura@gmail.com

<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来
がん哲学外来市民学会

代表 西原光治
編集 浦川 慶子